



ゲーム楽しみ接戦制す 光星

【八学光星—川内】第3クォーター、
八学光星の雪田がシュートを決める
—武蔵野の森総合スポーツプラザ

二転三転、追いつ追われつ。勝利の女神が最後にほほ笑んだのはゲームを「楽しんだ」八学光星だった。入りは良かった。目まぐるしい攻防の中、8点差をつけ第1クォーター(Q)を終えた。ところが第2Qになると動きが硬くなる。第3Qで逆転を許し6点差に。リズムがおかしくなり焦りも出てきた。主将上山が振り返る。ここで佐々木コーチが動く。「相手に合わせるのではなく、フレッシュャーをかけていけ」と指示。ディフェンスの強度が一段上がり、流れを引き戻していた。

試合終了間際、川内に追い付かれ延長にもつれ込んだとはいえず、エース雪田が「終盤はチーム全体で楽しもうと言いつけ、硬くならずにできた」と復調する。「3点シュートが決まり」乗ってきたと手応えをつかみ、終わってみればチームトップの28得点。さらには成田も24点を挙げ、接戦を制する原動力となった。

次は25日の2回戦、初出場とはいえず2超の留学生2人を擁し、この日の初戦で大勝した京都精華学園が相手。上山は「自分たちより高い相手なのでリバウンドを徹底し、絶対に勝つ」という気持ちを出して戦っていき、雪田は「格上だが、練習試合などを通じて対策は取ってきた。勝ちにいきたい」と力を込めた。(本間善幸)

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです